

別紙 1

ネットワークエッジ技術について

ネットワークエッジ技術では、「移動する IoT 機器」が接続する拠点を、ネットワークの近傍の複数拠点(以下 エッジ拠点)に分散し、データ連携や一次処理を行います。これにより、データ処理を複数拠点で分散して実施できることから、データの一極集中による処理速度の低下が避けられ、処理のリアルタイム性が向上するとともに、データの地産地消によるデータ転送量の削減や必要地域に閉じたデータ利活用が可能です。主な特徴は以下の通りです。

(1) 大量の接続、大量データの効果的な処理分散を実現

複数のエッジ拠点で分散処理を行うことで、接続数やデータ量の増加に対応することが可能です。

(2) 地域に閉じたデータ処理や、低遅延の処理を実現

隣接するエッジ拠点内でデータ分析や加工を実施することで、データ利用範囲の制限や、マスキングによるパーソナルデータの保護が可能です。また、近傍のエッジ拠点で処理をすることでネットワークの遅延を低減し、即時性を必要とするユースケースに対応することもできます。

(3) 不要なデータの削減や、複数のサービスへの処理連携を実現

「移動する IoT 機器」から送信されるデータをエッジ拠点で集約し、データの精査を行うことで、データの用途に応じた振り分けが可能となり、必要なデータのみをお客さまのシステムやクラウドサービスに届けることができるため、お客さまのシステムやクラウドサービスの負担を軽減します。

